

県庁舎跡地整備基本構想の概要

※ この基本構想は、①利活用における基本的考え方（理念等）、②そのために必要な機能（広場、情報発信、交流支援等）の考え方等を取りまとめたものです。

具体的な建物等の規模や配置、デザイン、個別の機能の詳細等については、今後の暫定供用による利用状況等を踏まえ整理します。

令和4年7月

長崎県 地域振興部 県庁舎跡地活用室

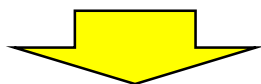
検討経過

平成22年	1月	民間懇話会からの提言（基本理念等）
平成23年	1月	県議会からの意見書
平成26年	4月	民間懇話会からの提言（用途・機能等）
同年	7月	長崎市からホール機能の提案
平成29年	2月	県議会からの意見書
令和 元年	6月	県庁舎跡地整備方針策定
同年	9月	整備方針の具体化（基本構想）に着手
同年	10月	埋蔵文化財調査に着手
令和 2年	1月	長崎市が文化芸術ホール見直しを表明
令和 3年	2月	予定していた埋蔵文化財調査完了
同年	6月	県庁舎跡地整備基本構想（骨子案）とりまとめ
同年	9月	県庁舎跡地整備基本構想（素案）とりまとめ
令和 4年	6月	県庁舎跡地整備基本構想（案）とりまとめ

基本理念

『歴史が息づく地※で、 賑わいと交流による新たな価値を創造する』

※岬の教会、長崎奉行所、4代の県庁のほか、森崎神社があったとする文献も存在するなど、
長崎を象徴する場所
海外等との交流により、異文化を融合させ、新たな価値を創造・発信し、我が国の近代化
に貢献するなど、歴史的に重要な役割を果たしてきた場所



この地の歴史や果たしてきた役割を踏まえつつ、100年に一度とも言うべき変革
の時期を迎えるにあたり、長崎県の将来の発展に資するような利活用を推進

利活用の基本的考え方

- **この地の歴史や果たしてきた役割をしっかりと伝える。長崎を象徴する場所にふさわしい、たたずまいやデザインとする**
- **まちなかの中心に位置する貴重な場所として、県民市民や観光客等による賑わいを生み出す**
- **海外との交流などにより新たな価値を創造してきた、この地の伝統を受け継ぎ、長崎県の将来の発展に資する交流やイノベーションを推進する**

整備する機能

- 県民市民の憩いの場や、様々なイベント等による賑わいの場として利用できる「広場」
- この地の歴史の変遷や世界遺産など本県の魅力を体感していただく「情報発信機能」
- 本県の将来の発展に資する、若者や女性、NPO等の多様な交流を促進する「交流支援機能」
 - ・ 県警本部跡地では、産学官等の連携によるオープンイノベーションを推進
- その他
 - ・ 観光客等の利便性向上のためのバスベイや待合所等の設置
 - ・ 旧第三別館や石垣等については、安全性の面等から慎重に利活用の方向性を整理
 - ・ 出島とのデザインの調和等にも留意しながら、石垣上と下をつなぐ階段等を整備
 - ・ 埋蔵文化財の状況に配慮した建物等の整備・配置に留意

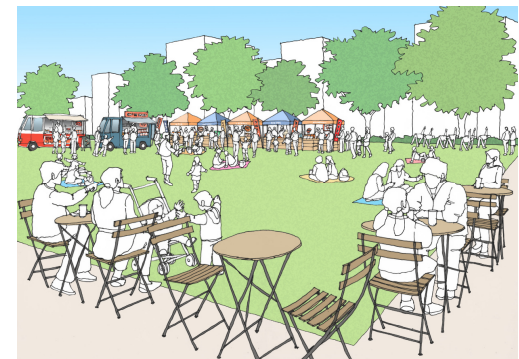
具体的な機能

➤ ①県民市民の憩いの場や、様々なイベント等による賑わいの場として利用できる「広場」

- ・ カフェやベンチ等を併設し、石畳や芝生等の空間の整備について検討
- ・ また、多様な催しやイベントに対応できるよう、電源や給排水設備等の整備についても留意

(利活用イメージ)

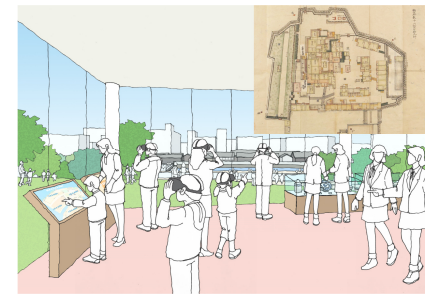
- ・ 安全面にも配慮した子ども達が自由に遊べる空間
- ・ 演奏会など音楽に親しめる空間
- ・ あらゆる世代に親しまれる空間（シビックプライドの醸成にも寄与）
- ・ 地域住民等による朝市やマルシェ等の開催
- ・ 長崎くんちや精霊船などの披露
- ・ 周辺散策等の集合場所等として活用
- ・ 災害時の避難場所としての機能等の検討 等



具体的な機能

➤ ②この地の歴史の変遷や世界遺産など本県の魅力を体感していただく 「情報発信機能」

- ・ VR（仮想現実）など先端技術等を活用し、この地の歴史等を体感してもらえるような手法について工夫
(利活用イメージ)
- ・ 2つの世界遺産の効果的なガイダンス
- ・ 先端技術等を活用した往時の様子の再現・疑似体験（岬の教会、長崎奉行所、さらに森崎神社があったとする文献も存在するなど、長崎のまさに中心・象徴する場所としての歴史を情報発信）
- ・ 長崎くんちなど県内の祭り等の伝統芸能の紹介 等
- ・ まちなかへの回遊や県内の周遊につなげる起点となるよう、観光・食・物産など本県の魅力を効果的に発信
(利活用イメージ)
- ・ 県内の豊富な食の魅力や県内各地の特産品の紹介
- ・ スイーツづくりなど体験型ワークショップの開催
- ・ きめ細かな観光情報やサービス等の提供 等



具体的な機能

➤ ③本県の将来の発展に資する、若者や女性、NPO等の多様な交流を促進する「交流支援機能」

- ・海外等との交流により、異文化を融合させ、新たな価値を創造・発信してきた長崎のまさに中心・象徴する場所という歴史を踏まえ、地域で活動されているNPO等の団体、若者や女性、外国人等の分野を超えた交流や連携をサポートするコーディネート機能を備えた交流の場を整備し、社会課題の解決や地域活性化等に資する持続的な活動を支援

(利活用イメージ)

- ・多様な人材が集い、学び、ディスカッションするなど新たなつながりを作る場
- ・先進事例のノウハウ等を紹介し、活動の輪を広げる場
- ・関係団体や大学等と連携した、国際交流等の実践の場
- ・チャレンジショップの設置について検討 等

【整備する設備等】

- ・多目的交流スペース、研修・講義スペース、プレゼンテーションスペース（映像・通信設備等を設置） など



具体的な機能

➤ ③交流支援機能（つづき）

- ・ 主に県警本部跡地では産学官等の連携によるオープンイノベーションを推進

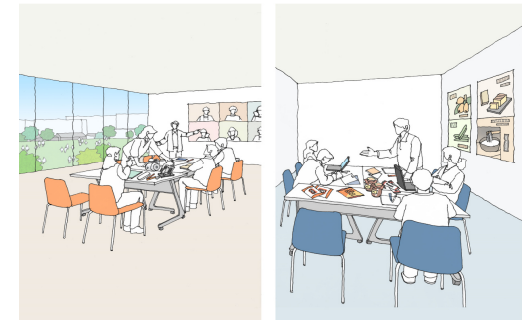
- ・ 各地の交流拠点とつなぐハブ機能やマッチング機能等を整備し、新たなビジネスやサービスの創出を支援。

（利活用イメージ）

- ・ 地域課題とソリューションの効果的なマッチングの場
- ・ 大学や企業等による共同研究を推進する場
- ・ オンラインを含め、大都市圏のイノベーション拠点等とつながる場 等

【整備する設備等】

- ・ コワーキングスペース、シェアオフィス、共同研究スペース、交流サロン など
- ※民間開発を基本に、企業向けオフィス等の整備を含め、整備計画等を精査



具体的な機能

○バスベイ・待合所等

- ・ 空港からのアクセスや都市間移動の利便性を考慮し、空港バスや都市間バス等の発着用のバスベイを整備
- ・ 雨風をしのげ、タクシー等への乗継ぎや市内案内等にも配慮した待合所を併設



○石垣の保存・活用、階段等の設置

- ・ 出土した石垣を保存・活用する方向で検討
※度重なる積み直しにより不安定との指摘があり、保存・活用に向けて、安全性の面などから慎重な検討が必要
- ・ 隣接する出島等とのデザインの調和等にも留意し、石垣上と下をつなぐ階段等を整備



具体的な機能

○旧第三別館

・耐震改修等の検証状況

旧第三別館がコンクリートとレンガの混構造であること等を勘案し、建物の安全性の面などから、①鉄骨等の補強による改修、②免震工法による改修、③ファサード（外観）のみを残す改修に大別し、類似事例等をもとにメリットやデメリット等を整理



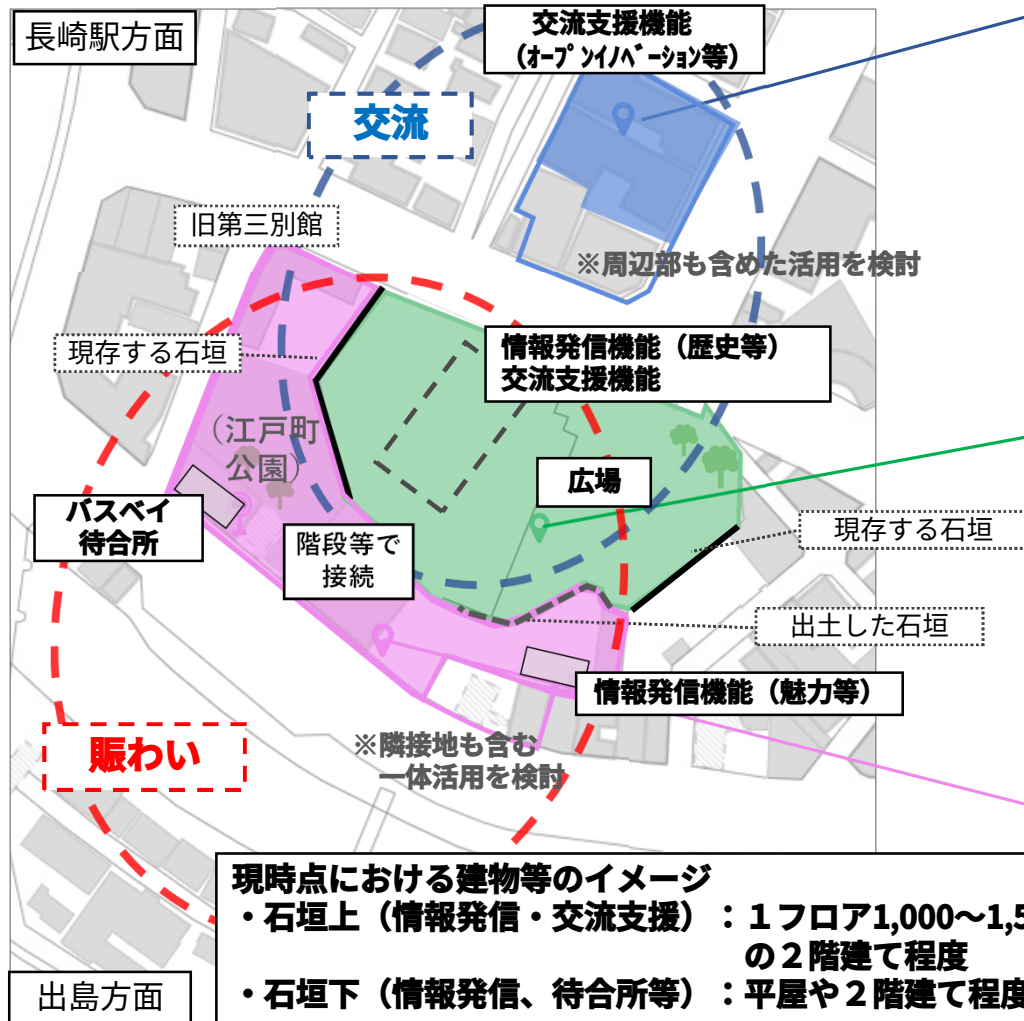
→上記の状況等を踏まえ、旧第三別館の利活用については、安全性の面などから慎重な検討が必要。今後さらに調査・検討を進め、利活用ニーズや今後の跡地活用全体の機能分担等を総合的に勘案し、今後のあり方を整理する

（参考 サウンディング調査やパブリックコメント等における利活用の提案例）

- ・大学のサテライトオフィス、若者等によるスタートアップ支援施設、イノベーション拠点
- ・建物等の歴史に触れ、平和への想いを深める場
- ・世界遺産等の情報発信センター、海外を含め多様な層の人材の交流を支援する場 など

機能配置のイメージ

- 「賑わい」と「交流」に資する機能を効果的に配置 ※具体的な建物等の規模や配置、デザイン等は今後検討のうえ決定



県警本部跡地

- ・周辺エリアの開発との連動等にも留意
- ・交流支援機能のうち、産学官等の連携によるオープンイノベーション拠点を設置
(コワーキングスペース、シェアオフィス、共同研究スペース、交流サロン等)

県庁舎跡地 (石垣上)

- ・この地の歴史を感じつつ、賑わいや交流を促す広場や空間を整備
- ・歴史等の情報発信機能のほか、多様な交流を促進する交流支援機能を設置
(多目的交流スペース、研修・講義スペース、プレゼンスペース等)

県庁舎跡地 (石垣下)

- ・歴史ある石垣の保存・活用について安全性等の面から慎重に検討
- ・出島との連携等にも留意し、人々が行き交う賑わいの空間を整備
- ・本県の魅力を伝える情報発信機能、石垣上と下をつなぐ階段等、バスベイや待合所などを設置

機能配置のイメージ（パース図）

○現時点における機能配置のイメージ

（埋蔵文化財の状況、石垣上の敷地の高低差の活用、出島からの景観等に留意し、石垣上のほぼ中央と、石垣下の東西の両端に建物を配置）

出島側からのイメージ



機能配置の検討の視点

今後の具体的な建物等の規模や配置、デザイン等の検討にあたっては、次の点などに留意する

(主な留意点)

- ・ 埋蔵文化財の出土状況・保存等への配慮
- ・ 敷地の広がり、高低差等の有効活用

(石垣上の敷地における屋外と屋内の空間双方の使いやすさ、石垣上と石垣下における機能の連動等を含む)

- ・ 出島から見た、岬を彷彿する景観等への配慮
- ・ 利用者の利便性等を踏まえた、バスベイ・待合所等の在り方
- ・ 周辺エリアの開発との連動、民間活力導入の動向 等

留意点等

○上質な空間の整備等

- ・歴史ある場所に見合う、センスのよいたたずまいやデザインを備えた空間を整備
- ・機能全体について、バリアフリーやユニバーサルデザイン等の視点を持って検討
- ・アフターコロナへの対応や防災・減災への対策、情報発信等に欠かせない通信環境の整備等にも留意

○可変性の確保

- ・複合的なハード、ソフト整備に対応するため、新たなニーズ等にも対応できるスペースの確保や、低層による建築とするなど、可変性を確保した整備に留意

○県全体の活性化につながるような効果的な情報発信

- ・特定の時代の復元によらず、VRやAR、MRなど先端技術等の活用により、歴史や文化等を体感していただける情報発信等について工夫
- ・地域の文化や歴史等について、時季を捉えて効果的に紹介すること等を検討
- ・関係人口の拡大や将来の移住定住につながるようなコンテンツ等の工夫・運用

○エリア全体の人の流れや日常の賑わいづくり等を意識した仕掛けづくり

- ・市町、関係団体、地域の皆様等と連携し、賑わい創出や効果的な情報発信のあり方、まちなかへの回遊や県内周遊を促すための仕掛けづくり等を検討
- ・出島との連携、江戸町公園の一体的活用等にも留意し、長崎市とも連携しながら賑わいづくり等を推進

○周辺エリアの開発との連動等

- ・周辺エリアも含めたまちづくりの動きにも留意した利活用の推進を図る。
- ・県警本部跡地を含む各機能の配置や規模等については、周辺エリアの開発との連動等にも留意しながら精査していく

整備・運営手法等

○整備手法等

- ・民間事業者等へのヒアリング等を実施しながら、効果的な事業スキーム等を検討

※現時点では、県庁跡地は、指定管理者制度の導入による民間ノウハウの活用を想定

県警本部跡地は、民間開発を含めた民間活力導入による実現可能なスキームを検討

- ・整備事業費についても今後精査

※類似事例による試算では、広場、情報発信、交流支援（県警除く）等で約20～30億円程度

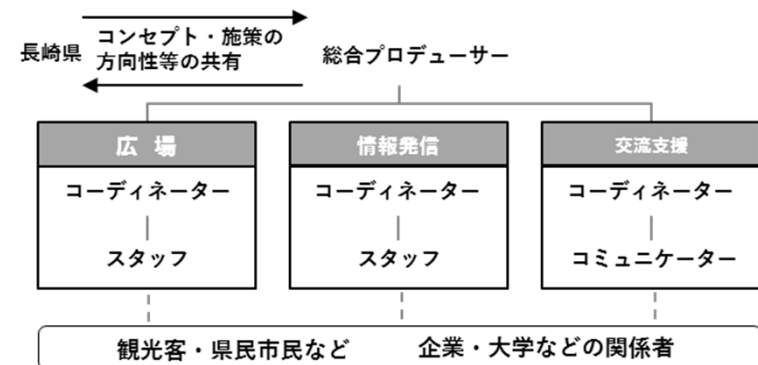
○運営体制

- ・民間のノウハウの活用等にも留意し、統一的なデザイン・コンセプトの下に、施設全体における設計・工事
- ・運営までを一貫してマネジメント（監修）したり、関係者間をつないでプロジェクト等を具体化させていくことのできる運営体制の導入について留意

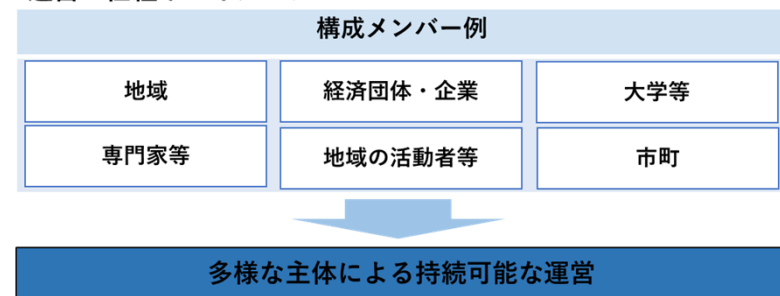
○持続的な運営に向けた仕組みづくり

- ・これまでの賑わいづくりの取組等を踏まえ、地域の方々や経済団体等とともに効果的な仕組みづくりを検討
- ・県民市民や企業、地域の団体等が、賑わいづくり等に主体的に関わることのできる運営の在り方等に留意

運営体制のイメージ図

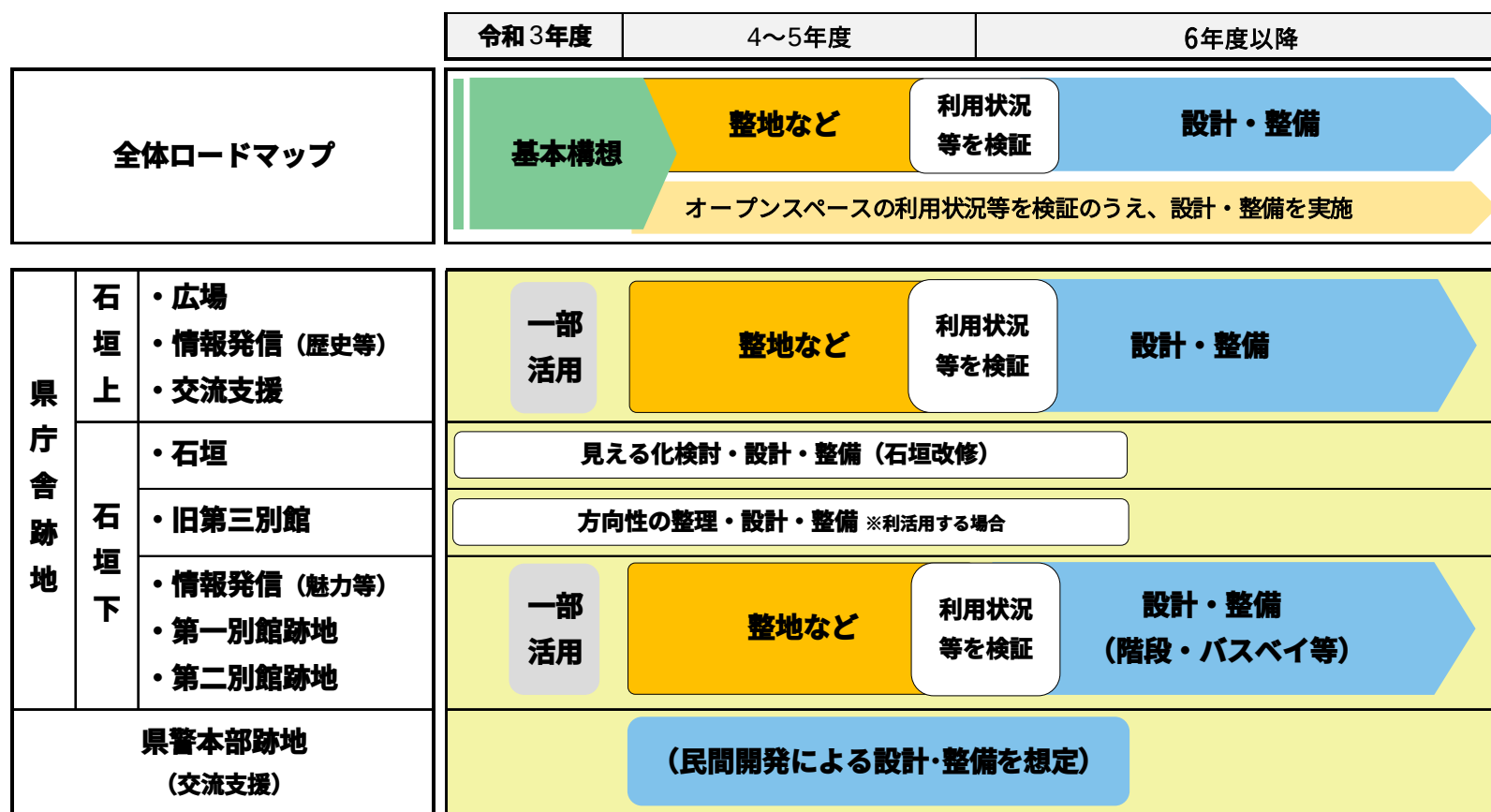


運営の仕組みのイメージ



今後の進め方 ※暫定供用による利用状況等の検証を踏まえた設計・整備

- 石垣上や第一別館跡地付近等のオープンスペースを暫定供用し、利用状況等を検証のうえ、その後の設計・整備を検討
- 暫定供用においては、石垣上等の整地や仮設の階段等の設置などの基礎的工事を先行して実施。利用状況等を踏まえ、暫定供用において必要となる追加整備等を検討



※個々の箇所の設計・整備の時期は、検証状況に応じて異なる可能性がある